

公民館だより なかがわ

第507号

令和7年1月31日
発行 中川地区公民館
TEL.Fax : 679-2501

【一般講座】

2月「レザークラフト教室」

日 時：2月28日（金）10：00～12：00 頃
場 所：中川地区公民館 集会室
講 師：宮城興業（株）（南陽市）
内 容：上質な本革を使って、ペンケースを作ります。
裁断・縫製する穴をあける作業から始まり、
針と糸で縫い付けていきます。
持ち物：エプロン、筆記用具、飲み物、
必要な方は眼鏡
材料費：1,500 円（つり銭のないようにお願いします）
対 象：中川地区民
定 員：10 名程度（定員になり次第、受付終了）
締切日：2月12日（水）

上質な本革を使った
自分だけのオリジナル作品ができます。
プレゼントにもどうぞ！！



参加者募集

出前スポーツ教室

まだ空きがありますので、ぜひお申込み下さい。
詳細は、公民館までお問合せ下さい。

日 時	2月21日（金） 10時～11時	3月21日（金） 10時～11時
種 目	ミニフットゴルフ	太極舞
持ち物	飲み物 屋内シューズ	飲み物 屋内シューズ ヨガマットか バスタオル
場 所	中川地区公民館 集会室	



お申込み・お問合せ：中川地区公民館（☎679-2501）

2月・3月 行事予定



2/4(火) 予算審議会、三者会、会長会
公民館運営協議会
2/7(金) パソコンクラブ
2/8(土) 笑いと健康のつどい
2/18(火) そば打ち教室
2/21(金) 出前スポーツ教室「ミニフットゴルフ」
子ども会育成会反省会
2/25(火) 粋いき倶楽部（職員不在時間あり）
2/28(金) 市報、館報、福祉村だより
一般講座「レザークラフト教室」

3/4(火) 施設訪問
会長会、公民館運営協議会
3/5(水) 中川食改総会
3/7(金) パソコンクラブ
3/11(火) 中川地区監査
3/14(金) 会長会、公民館運営協議会
3/19(水) 令和7年度新会長会顔合会
3/21(金) 出前スポーツ教室「太極舞」
3/25(火) そば打ち教室
3/28(金) 一般講座「フラワーアレンジメント教室」予定
※3月募集

詩吟教室（火曜日） 2/4、18、25
ラージピンポン愛好会
（木曜日） 2/6、13、20、27

スポーツ麻雀愛好会
（木曜日） 2/6、13、20、27

中川地区新年祝賀会 開催！

1月8日（水）、令和7年「中川地区新年祝賀会」が、上山市副市長はじめ多くの来賓の方々をお迎えして開催されました。棚木地区の伊藤 賢一地区会長の司会進行により、市民憲章の唱和、中川地区会長会 佐藤 友治会長の主催者挨拶が行われました。また、中川地区表彰では、上山市地域づくり推進員として5期10年にわたり、公民館活動を中心とした地域づくり活動にご尽力いただきました、権現堂地区の 齋藤 和子 様に感謝状が贈られました。心より感謝申し上げます。続いて、鈴木副市長、遠藤県議会議員より来賓を代表してご挨拶を頂戴いたしました。その後、高野地区の山口 博之さんにお謡を、薄沢地区の齋藤 陸州さん（齋藤 秀雄さん）に祝吟を披露していただき、新春にふさわしく厳かな雰囲気となりました。その後は皆様和やかに歓談され、最後に、中川地区のますますの発展を祈念し、山田 君夫館長の音頭により万歳三唱にてお開きとなりました。これからも中川地区がますます活性化していけるよう知恵を絞って、今年もできることを精一杯やっていきたいと思っております。



出前スポーツ教室 「ストレッチヨーガ」

1月21日（火）、出前スポーツ教室1回目の「ストレッチヨーガ」が、横倉 康子先生指導のもと開催されました。ヨガのポーズで呼吸を整えながら、肩や背中、太ももなどをしっかりと伸ばし、寒さやストレスで凝り固まった筋肉を十分にほぐしていきました。終わるころには、体がほかほかになりました♪次回は、2月21日（金）の《ミニフットゴルフ》です。まだ定員に達しておりませんので、興味のある方、体を動かしたい方は、ぜひお申込み下さい！



粋いき倶楽部「だんご木飾り作り交流会」

1月10日(金)、中川小学校1、2年生13名と中川粋いき倶楽部会員による「だんご木飾り作り交流会」が中川小学校の家庭科室で開催されました。「だんご木飾り」は、小正月(1月15日)に秋の豊作などを願って行われる伝統行事です。楽しみにしていた1、2年生と一緒に、だんごの粉に水を入れて混ぜ合わせ、食紅で色をつけてこねていきました。児童の皆さんは、一つ一つの作業を楽しみながら一生懸命取り組んでいました。丸めただんごを茹でて冷ました後、ふれあいホールに移動して、地区の方からいただいた立派なミズキ(水木)に、だんご、麩菓子、鯛飾りや繭玉、1、2年生が作った折り紙飾りを飾っていき、見事なだんご木が完成しました!! 楽しかった~との感想をたくさんいただき、粋いき倶楽部の会員さん達もとても喜んでいました。がんばって作ってくれた児童の皆さん、参加していただいた粋いき倶楽部の皆さん、本当にありがとうございました。



わんぱく広場「冬に遊ぶ会」

1月24日(金)、わんぱく広場「冬に遊ぶ会」が、公民館広場を会場にナイター設備を使用し開催されました。昨年までとは打って変わって、今季は徐々に雪が降り積り当日まで何とか残った雪で広場は真っ白に!! 絶好の雪遊びが出来ました。スノーフラッグゲームや宝探しゲームでは、思いっきり雪の上を駆け込んで行ったり、宝物を探しに行ったりと『冷たい』『中身が気になる』『もっとやりたーい!!』と終始歓声が途切れることなく聞こえ、参加者全員で楽しく過ごす事が出来たと思います。最後に館長とじゃんけん大会! 宝はどのくらい見つけたかな? 来年もまた開催したいですね! お手伝いいただいた皆様、ご協力ありがとうございました。



雪道走行 … あなたの運転は大丈夫?

<冬道は「安全運転5則」を守って事故防止>

冬道は、危険を感じても車を制御できなくなる場合があります。「冬道の安全運転5則」を守って交通事故を防止しましょう。

(交通安全協会こまくさ支部より)

<冬道の安全運転5則>

- ① スピードは、夏場より10キロ以上減速する。
- ② 車間距離は、路面乾燥時の2倍以上とする。
- ③ 急加速、急ブレーキ、急ハンドル等の急激な操作を避ける。
- ④ 視界不良時は、前方をよく見て早めに徐行する。
- ⑤ 危険がいっぱい。追い越しはしない。



おらほの中川へ地域の話題シリーズ 第百九十六弾

「昭和考、問わず語り（その48）」

満州国建国以降、日本政府は開拓入植を国策として推し進めます。本稿は、当地区民の入植経過について記述します。

蔵王郷開拓団の結成

南村山郡町村長会は、昭和十三年十月、国の「十か年百万戸送出」の計画に呼応し、「南村山郡大陸進出同志会」を設立。その後、県の指導により分郷計画素案を決定した。

その計画は、「十か年計画で庄内郷や東村山郷のように、現地に二百戸ないし三百戸の単独集団開拓団を建設するというものではなく、三十戸単位の「蔵王郷」と称する部落を県の年次編成開拓団の中に建設しよう」とする計画だった。そして送出目標を、総計百二十九部落（三十戸単位）、三千八百七十戸を送出するとした。

しかし、三十戸の小部落を各地の団に点在させるには、分散送出しなければならないなどの理由から再検討の上、一つの地区に郡民だけがまとまって入植し村造りをする「分郷」にすべしとなり、三千八百七十戸を第九次三百戸集団の一回編成に変更した。

しかし、昭和十二年勃発した日華事変（日中戦争）の戦域拡大と太平洋戦争への進行過程で、農村では労働力不足の現象が顕現した。

こうした情勢変化の影響を受け、移民を確保する事業は自然渋滞を来し、建設の目標は三百戸から二百戸計画に変更された。それでも募集は進捗せず、昭和十七年に至っては、事務組合を結成し、上山町と中川村、本沢村、山元村の四か町村から集中送出することとした。

しかし、それでも期待した実績をあげることが出来ず、昭和十八年度末までに百二十戸の送出にとどまった。このため不足数八十戸を堀田村、滝山村、東沢村の三村共同による「蔵王郷」の併存開拓団編成をすることに決め、金瓶の鈴木十兵衛を団長とする百戸集団の「第十三次蔵王郷開拓団」を送出する計画に切り替えた。

第九次小城市蔵王郷開拓団の入植

第九次小城市蔵王郷開拓団とは、南村山郡分郷の団名である。昭和七年の第一次弥栄村開拓団入植から始まって第九次目に当たる。

団の入植地区は、元満州国東安省宝清県大孤山村梨樹溝子地区（大梨樹溝）小城市であった。満州東部に位置し、ソ連国境まで東部へ約百五十キロ、北方へは約二百キロの地点である。

入植に当たっては、多くが日本海航路により新潟港から出帆し、北朝鮮の清津港等の上陸。その先は大陸鉄道により鮮満国境の図們駅を経て満州国に入った。満州の牡丹江駅に着くと東満州国境の虎林の汽車に乗り換え、約百キロ北の林口駅で北上する汽車と分かれ、東の虎林に向かった。虎林線に入ると、沿線付近は、集合開拓、分散開拓、集団開拓の入植地帯となっていた。

林口駅から約百五十キロで省都の東安駅に着く。東安から蔵王郷までの約百キロは鉄道がなく、軍用トラック等により便乗し軍の資材輸送用に開発補強された山岳道路を通り、宝清街に入った。

宝清街は、宝清県の中心地であり、県公署、郵便局、満州炭鉱支社などが所在した人口約一万人の満州街であった。在留邦人は、官公署職員、商社員、自営業者を合わせ約百人が居住していた。また郊外には、昭和十三年十二月から騎兵第三旅団（盛岡）が駐屯していた。

この宝清街から東南方約十六キロの所に「山形県報国農場」が設置されており、また北方四十五キロには、本県の庄内郷二カ団と本県義勇隊開拓団が入植していた。

蔵王郷は、宝清の西南約十キロの小城市地区に入植した。宝清県内には、集団開拓団十三地区、義勇隊開拓団十地区、各県報国農場六か所など多くの日本人開拓民が入植していた。

蔵王郷の風土

蔵王郷は、宝清県内開拓地のうちで宝清街には最も近距離の開拓団であった。

この地の気候は、最高気温三十五度、最低気温氷点下三十度、無霜期間は五月十五日から九月十五日

甲石地区 高橋 正之

までの百二十日間で営農上の支障はなかった。

地形は、地区中央部はおおむね平坦で、東部と北部には、上山の白禿山、赤禿山程度の山があり、地区の中央を縦貫する水量豊かな大梨樹溝河が西南から東北東に流れていた。団用地の総面積は、八千三百ヘクタールで、その内訳は（単位はヘクタール）、既耕地四百七十（水田二百、畑二百七十）、荒地（未耕作原野）千九百四十、不可耕作地五千八百六十（山林四千三百五十、山林原野千五百十）で、既耕地は原住民から国が買収した土地であった。土質は、砂質壤土で黒色腐蝕土地帯（特に河川流域）は、地味肥沃であった。（本文及び写真は、「上山市史」下巻より。略図は、「満州開拓史」全国拓友協議会発行より。）

※ 当時の上山市の出来事

昭和十二年九月 山形県がこの頃より出羽村の青年修練道場で、満州花嫁訓練を開始する。

（次回は、蔵王郷の村落配置、耕作状況、分郷の構成について記述する予定です。）

